

## 五感革命

～子どもの未来は公園に詰まってる！～

Five Senses Revolution～Children's future is in the park!～

グループ名：J.H.Park(Joyful Hachioji Park)

学生氏名：石井博子，内山莉那，神田美穂，佐藤美幸，堤かおり，安田愛華，山田詩音

指導教員：前田幸男

所属先：創価大学 法学部 法律学科 前田ゼミ

子どもたちが自然と触れ合う機会が減少傾向にあり、心身共の健康が損なわれていることが課題となっている。自然を使った遊び方を掲示した看板を八王子市内の公園に設置するという提案を通じて、子どもたちが自然と触れ合う機会を増やし、課題解決を目指す。

キーワード：自然欠乏症，公園，自然体験，五感

### 1. はじめに

近年、子どもたちが自然と触れ合う機会は減ってきている。国立青少年教育振興機構が2022年に公表したデータによると、2010年代を通して子どもの自然体験に減少傾向がみられ、コロナ禍を経た令和4年にさらに減少していることが指摘されている。また文部科学省(2020)は「体験活動を通じた青少年自立支援プロジェクト」の分析において、小学生の頃に自然体験を含む様々な体験活動を経験することが、その子どもが高校生になった際、自尊感情、外向性、精神的回復力などにプラスの影響を与え、体験活動が子どもたちの健やかな成長をより確かなものにする事を示している。このことから、自然体験を含む多様な体験活動に参加する人をいかに増加させるかということが、健康や教育などについての課題となっている。

自然体験と関連する、生活に身近な場所のひとつとして公園が挙げられる。現在八王子市内には約930か所の公園が存在しており、都内でも高い緑被率を誇る八王子市においてその大部分を占めている。市内の公園充足率は2016年時点で84%であり、また市民一人あたりの公園面積は都全域の値比べて約1.5倍と高い数値となっている。しかし、整備や維持管理の向上を求める声が市民からあがっており、今後どのように増加した公園や緑地を活用していくかが課題となっている。(八王子市 2016)

### 2. 提案内容

上記の現状を踏まえ、私たちは八王子市内の公園に自然のものを使った遊び方を掲示する看板を設置することを提案する。対象となる公園は八王子市内全域にある公園である。看板の形態に関しては各公園の大きさやレイアウトによるが、ラミネート加工をした掲示を木に巻きつけたりすでに設置されている看板に貼り付けたり、看板を地面に差し込む形で立てるなどが考えられる。掲示する遊び方の例を3つ挙げる。1つ目は自然のもので楽器を作る遊びで、地面に落ちている木の棒や石を使って音を鳴らし音楽を作る。2つ目は落ち葉や枝を使ってカラーチャートや動物を創ったり、福笑いをしたりする。3つ目は、その公園に生息する花、鳥、虫などを掲示し、それらを探してみる遊びである。これらの身近な自然の中での遊びを通して五感が刺激され、近年問題となる子どもの健康や幸福に寄与する自然体験の減少の解決に貢献することが期待できる。

自然環境で感じられる総合的な効果は心身の健康にプラスの効果を与え、単独の要素では得られない総合的な場として自然環境でのアクティビティは有効的である(白井 2022)。子どもの行動上の問題や心理上の問題において自然とのつながりが増加した

子どもの方が自然とのつながりが減少した子どもと比較して問題レベルが低いことが示されており、この結果は自然によってもたらされる幸福感がストレス回復につながることを意味する (Samantha, Susan, Ellan, Mina & Claire)。また自然を楽しむことは自然のつながりの増加につながり、さらに子どもたちの持続可能な行動を促進する重要な要素である (Cheng & Monroe, 2012)。つまり自然欠乏症の子どもたちに対して、自然に触れる場である公園で遊び方の提案をすることは自然を楽しむことにつながり、かつ自然のつながりの増加、幸福感の増加への結果とつながると考える。

緑被率 60%を超える八王子市は、都内でも突出した自然豊かな地域である。市内各地にある 920 か所を越える公園では、この多様な植生と触れ合うことができるだろう。公園の数は東京都内で 1 位であり、1 人当たりの公園面積が 12.07 m<sup>2</sup> と、これも都内では上位となっている。多くの住民が公園を利用できることを示唆しているだろう。都市の一部でありながら、山地や森林、川などが点在しているため、都会の喧騒から離れた自然体験が可能だ。この豊かな緑地環境は、自然を活用した遊びや学びの場として理想的であるといえる。

### 3. おわりに

本報告は、テクノロジー化が進み、子供たちが自然との触れ合い方がわからなくなっているという現状への対策として、八王子市内の公園に自然のものを使った遊び方を掲示する看板を設置するということを提案した。この効果から、子供たちの心身共の健康の向上が見込まれる。また導入後の展望として、自然と触れ合う機会の減少という課題は全国共通となっていることから、①八王子市が対策を行うことによる市のイメージ向上、そして都市でありながらも、緑が豊かである八王子市の良さを伝えられることによる、②将来的な居住数の増加が見込まれると考察する。

### 参考文献

白井 (2022.1.19) 「子供たちの自然欠乏を取り戻そう」 <https://www.tourism.jp/tourism->

[database/column/2022/01/mental-healthcare-for-kids/](https://www.tourism.jp/tourism-database/column/2022/01/mental-healthcare-for-kids/)

東京都建設局 (2022.04) 「東京都都市公園等区市町村別面積・人口割比率表」 <https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/>

八王子市 (2020.3) 「八王子市みどりの基本計画 第 2 章 みどりの現状と課題」 <https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/life/004/green/midorikei/p006983.html>

Cheng, J.-C.-H., & Monroe, M. C. (2012). Connection to nature: Children's affective attitude toward nature. *Environment and Behavior*, 44(1), 31-49. <https://doi.org/10.1177/0013916510385082>

Samantha Friedman, Susan Imrie, Elian Fink, Mina Gedikoglu, & Claire Hughes (2021). Understanding changes to children's connection to nature during the COVID-19 pandemic and implications for child well-being. <https://doi.org/10.1002/pan3.10270>

国立青少年教育振興機構 (2022) 「青少年の体験活動に関する意識調査(令和 4 年度調査) ~減少する体験活動、放課後や休日の過ごし方の実際~」 [https://www.niye.go.jp/wp-content/uploads/2024/05/gaiyou\\_R4jiritsu.pdf](https://www.niye.go.jp/wp-content/uploads/2024/05/gaiyou_R4jiritsu.pdf)

文部科学省 (2020) 「令和 2 年度 体験活動を通じた青少年自立支援プロジェクト」 [https://www.mext.go.jp/content/20210908-mxt\\_chisui01-100003338\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210908-mxt_chisui01-100003338_1.pdf)